

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）
分担研究報告書

進行性骨化性線維異形成症 (FOP) における全身麻酔下での抜歯手技に関する研究

研究分担者 須佐美 隆史

東京大学医学部附属病院 顎口腔外科・歯科矯正歯科 准教授

研究要旨 進行性骨化性線維異形成症 (FOP) 患者は開口障害をしばしば呈し、抜歯が困難であるとともに不用意な抜歯操作は骨化を進行させる。本研究では、FOP 患者に対し全身麻酔下で抜歯を行う際に用いる、症状進行を引き起こさない術前準備、術中手技に関するプロトコルを作製した。さらにそれに基づき、FOP 患者の大白歯 6 本の抜歯を行い良好な結果を得、安全な抜歯方法を確立した。

A. 研究目的

進行性骨化性線維異形成症 (FOP) 患者は開口障害をしばしば呈し、抜歯が困難であるとともに不用意な抜歯操作は骨化を進行させる。本研究では、FOP 患者に対し全身麻酔下で抜歯を行う際に用いる症状進行を引き起こさないための術前準備、術中手技に関するプロトコルを作製し、その有用性を検討した。

B. 研究方法

プロトコルは、開口障害を示し大白歯 6 本の萌出異常を認めた 18 歳の男性 FOP 患者に対する全身麻酔下での抜歯をモデルとして作製した。研究にあたっては、患者および家族の全面的な同意と協力を得た。

C. 研究結果

経鼻送管、術前シミュレーションに基づく術中体位の決定、無理な開口をさせない頬側からのアプローチによる抜歯を行うことにより、全身麻酔下で安全に抜歯を行えることが明らかとなった。

D. 考察

大白歯の萌出異常はしばしば歯周炎の急性化を引き起こし、FOP の症状を進行させる可能性があるとともに、呼吸障害を引き起こす危険性もある。一方、局所麻酔下での抜歯は症状を進行させる危険性が指摘されている。本研究で作製した全身麻酔下での抜歯プロトコルは、炎症急性化に伴う緊急処置を回避するために有用と思われた。

E. 結論

FOP 患者に対し、全身麻酔下で安全に抜歯を行う方法が確立された。

F. 健康危険情報

特になし。

G. 研究発表

1. 論文発表

英文論文作成中。

2. 学会発表

森良之, 須佐美隆史, 他: 進行性骨化性線維異形成症 (FOP) における全身麻酔下での抜歯経験. 第 54 回日本口腔外科学会学術大会 (日口外誌 55 特別号・1302・2009)。